

令和7年度 第1回市川市食育推進関係機関連絡会（詳細）

1 開催日時：令和7年10月16日（木）午後3時～4時35分

2 場 所：市川市保健センター4階大会議室

3 出席者：代表13名

　　忠岡氏（一般社団法人市川市医師会）

　　鈴木氏（一般社団法人市川市歯科医師会）

　　池口氏（市川市PTA連絡協議会）

　　山崎氏（市川市私立幼稚園協会）

　　三吉氏（市川市食生活サポート協議会）

　　澤田氏（市川市漁業協同組合）

　　菅谷氏（千葉伝統郷土料理研究会）

　　中野氏（市川商工会議所）

　　相原氏（市川市消費者モニター友の会）

　　山本氏（市川市社会福祉協議会）

　　田邊氏（千葉県市川健康福祉センター）

　　高橋氏（和洋女子大学）

　　山本氏（生産者代表）

（事務局）保健部：樋口次長

　　保健センター健康支援課：高城課長、中川主幹、平林副主幹、

　　池田副主幹、大杉主任技師、中村技師

（関係課）農政課：長野主事

　　臨海整備課：高橋主幹、飯田主事

　　保健体育課：佐竹主幹

　　こども家庭相談課：麻生主幹、村上副主幹

　　幼保施設管理課：佐藤主幹、高橋副主幹

　　清掃事業課：秋元主任、江端主任主事

4 内 容 （1）令和7年度の市川市の食育推進について

（2）第4次市川市食育推進計画について

（食育に関するアンケート調査報告、中間評価）

（3）代表者及び関係機関等の取組紹介

（4）その他

5 閉会

健康支援課長：皆様こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。只今より、令和7年度第1回市川市食育推進関係機関連絡会を開会いたします。

本日の会議につきましては、市川市審議会等の会議公開に関する指針により、公開が原則となっており、傍聴の希望があった場合、指針に沿って公開の可否を決定いたします。また、会議録は市川市公式ウェブサイト、ホームページの方で公開をいたします。会議録は一言一句正確なものではなく、意見を集約したもので、お名前も入れさせていただきます。尚、公開にあたりまして、各代表者のご発言部分に関しましては、事前に確認をいただいた上で公開をさせていただきますのでぞよろしくお願ひいたします。本日、傍聴はいらっしゃいませんので、議事に入らせていただきます。

（1）令和7年度市川市の食育推進について

事務局：インデックスの内容1(1)令和6年度食育の推進報告をご覧ください。

食育関係課会議を5回、食育推進関係機関連絡会を2回実施いたしました。

関係課に関する内容としまして、9月にスポーツ料理研究家の村野明子先生をお招きし食育講演会を開催、「切りっぱなし野菜で栄養バランスアップ」というテーマでお話をいただきました。その他に、6月には生涯学習センターで食育展示、広報いちかわ食育特集に、年代別の食事のポイントをテーマに掲載いたしました。

次に（2）令和7年度食育の推進報告及び計画についてです。

会議は食育関係課会議を4回、食育推進関係機関連絡会を2回実施予定しております。取り組みは、広報活動として6月の食育月間に生涯学習センターで「市川の食育取組紹介」というテーマで食育展示を行いました。広報いちかわの食育特集では、「おいしくかしこく野菜を食べよう」ということで野菜の効能や物価高騰の中でも、野菜を取り入れる工夫、市内小学校の取り組みについて掲載いたしました。

その他、食育の日シールや食育探検の配布も行っております。

食育講演会につきましては、9月に料理研究家の鈴木佳世子先生、そして株式会社ティップネスのインストラクターを講師にお招きし、「元気が出る防災食」「エコノミークラス症候群の簡単体操」について、お話やポリ袋を使った調理のデストレーション、試食、そして体操の実技を行いました。

次に食育関係課の事業等につきまして、健康支援課の新規事業を中心にお話させていただきます。食生活サポーターの活動支援では10月に市川漁港で開催された「いちかわ三番瀬まつり」に今年度より参加し、参加者の方に魚についてのリーフレットやレシピの配布を実施いたしました。

その他には、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業として、シニアのための高血圧予防講座を11月と12月、各1回ずつ実施予定しております。

こども家庭相談課：こども家庭相談課では、定例事業として、パパママ栄養クラスや離乳食教室などの母子健康教育、依頼の栄養教育、こども館等での栄養教育を通して、お子さんの食育、そしてお子さんを通して若い世代、働く世代、親御さんの世代の食育も推進して参ります。

農政課：農政課の取り組みとして、まず、市民農園は市内5ヶ所、約570区画を開放しております。毎年人気の事業で、各農園、現在満員となっており、キャンセル待ちの申し込みも多くいただいている状況となっております。皆様、お好きな野菜や果物を育て、楽しんでいただいている。続いて、ふれあい農園は、こちらも体験式の農園事業で、市民農園は好きなものを各自で作っていただきますが、こちらの事業は希望者50組を募り、みんなで体験する事業となっております。今年度はさつまいもの栽培に挑戦していただきました。5月に植え付け、先日10月4日に無事収穫を終

えました。今年は植え付け、収穫時に残念ながら雨に降られてしまい厳しい状況での作業となりましたが、それでも多くの方にお越し頂くことができました。例年以上に高温で雨が少ないこともあり、気象条件に不安がございましたが、皆様は立派なさつまいもを手にし喜んでいらっしゃる様子が伺えました。後日、お願いしたアンケートでは、「親子で素敵な時間を過ごす事ができた」という声や「農作業や農地の維持の大変さ、収穫の喜びを肌で感じられる活動を小さいうちから体験できることは良い」という声も頂戴しております。

おうちでちょっと菜園は、市民農園に行くことや体験農園に参加することが難しい方でも、ご家庭のベランダ等で気軽に栽培ができる事業となっております。例年、トマトの栽培を体験していただいており、途中で困りごとや疑問が発生した場合にはメール等で随時ご相談を承っており、サポート体制もできるだけ充実できるように工夫をしております。

続いて、市川のなしじんフェアは、8月9日に行徳駅前、8月23日にいちかわごちそうマルシェの中で開催しました。今年は梨以外にも、トートバッグやなしウォーター、グミも販売し、加工品の販売にも力をいれました。市川の野菜フェアは、本来、5月に市場のごちそうマルシェで開催予定が雨によって中止となり、今回は11月29日に市川市八幡市民交流館ニコットで開催を予定しております。ニコットは、今年できた新しい施設で、お子様が多くいらっしゃる施設とのことですので、当日はお子様にも野菜や農業に親しみを持っていただけるような出し物やゲームをご用意できたらと検討中でございます。

最後に、農水産まつりは12月に開催予定と記載しておりますが、会場の都合により、今年度は中止となりました。以上です。

臨海整備課：今年度は、6月に旬を迎えたスズキを市内の鮮魚店で販売しました。また、10月5日、市川漁港でいちかわ三番瀬まつりを開催しました。令和5年度から市川市漁業協同組合の全面的な協力により始まり、今年で3回目を迎え、来場者は昨年度の1,200人を超え、今年度は1,500人と、多くの市民にお越しいただきました。尚、今回は、新たに、かつて本市で盛んであった塩づくりについて、子ども達に昔ながらの製法をもとに体験していただきました。

これから冬にかけてノリの季節が始まり、先日ノリの種付けが行われたと聞いており、市川のノリは県内で一番品質が良いと言われています。1月下旬に、とれたての生ノリを市内の鮮魚店と行徳支所で、今年度も販売する予定です。また、同じ時期に学校の給食でも取り扱っていただき、子ども達にもノリのおいしさを味わっていただきたいと考えています。さらに生ノリを干して乾燥させるノリ漉きを学校で子ども達に体験していただきたいと考えています。コロナ渦前は年間で10校程度実施されていましたが、講師の高齢化に伴って、現時点では3校程度になってしまっています。今年からは、興味のある学校の先生に、ノリ漉きの講師になっていただき、ノリ漉き台を市から貸し出すという仕組みにしたいと考えています。すでに先生方への研修を実施しており、現時点で10校程度の学校が興味をもっています。

最後に、例年人気の「魚のさばき方教室」については、来年2月中旬ごろに実施したいと考えています。

幼保施設管理課：幼保施設管理課は、令和6年度と同様の取り組みの継続となります。

まず、各保育園での食育計画に基づき、野菜の栽培や収穫、クッキング保育、箸の持ち方教室については昨年度、箸の媒体を5セット園で作りまして、それを順番に回して、各保育園で行っております。また、だし教室などの取り組みも行っております。

食育計画は、評価を数値で残せるように作成しておりましたが、全園で評価の活用ができていなかったという反省をもとに、今年度は1つずつの計画についてきちんと

評価を出すように取り組んでおります。

献立については、物価高騰により内容の調整等をしていく困難さはございますが、季節感のある献立を心がけるようにしております。行事食もその都度組み入れるようにして、園児に行事食の意味を伝えるようにしております。また、保護者の試食については、保育園の味を年に1度確認していただくという意味も込めまして、保育参観の時に実施させていただいております。

最後に、昨年まで3年間継続して実施してきた給食レシピの動画撮影と配信については、継続的に現在もホームページ、YouTubeで配信しておりますが、新規の撮影のは行わず、今年度は今まで3年間撮り溜めておりました動画から、来年度、レシピ集として本を発行するように今準備を整えております。以上になります。

保健体育課：保健体育課では、ヘルシースクールプランに基づく食育分野として児童生徒の現状に合わせた食に関する指導の全体計画を各学校で策定し、教科横断的に指導を充実させています。また、学校給食を生きた教材として活用して、栄養教諭または学校栄養職員を中心とした学級担任との連携を図った形での野菜のさやむき、栽培活動、調理等の体験活動を行っております。また、和食の良さ、郷土料理の食文化理解、継承を目指すとともに千葉県産、市川市産の食材の活用を推進しています。さらに家庭や地域との連携を図るために、給食だよりの配布、試食会等を通じ、健全な食生活を実践するための正しい知識を啓発しています。

今年度より、和食育として、市内全校で和食の日と献立に記載することを統一しております。こういった各校の現状に合わせ、だし、郷土料理、行事食といった和食の良さを伝えるという取組を始めています。今年度、子ども達の意識調査を行っておりますので、この結果を合わせて、来年度の和食育の取組の活動としてどのような形にしていくかというのをまた検討していきたいという状況です。以上です。

清掃事業課：次に、清掃事業課の取り組みについてご説明させていただきます。清掃事業課では、主に食品ロス削減について取り組んでおります。年間を通じたフードドライブ事業によりご自宅に余った食品、食材などの引取を実施。今日までに、ファミリーマート様と協定を結んで市内9ヶ所に常設型のケースを設置しています。また、直近で言えばいちかわ市民まつりなどの市内で開催しているイベントにてフードドライブを開催しております。

今月10月は、食品ロス削減月間ということで、第2庁舎とクリーンセンターにて、特設のフードドライブを実施しております。また、第2庁舎に懸垂幕、ポスター等を掲示して、周知しております。併せて、市内の小学校で、ごみと資源物について環境学習講座を開いています。講座内容の一部に、食べ残しをしないことやコンビニやスーパー・マーケットなどで推奨されている手前どりについて触っています。これらの事業を通じて、食品ロス削減に向けた周知啓発を清掃事業課としては行っております。

健康支援課長：食育関係課から、令和6年度食育推進の報告及び令和7年度前半の取組、計画について報告をいただきましたが、何かご質問等はございますでしょうか。

高橋代表：先ほど幼保施設管理課の方から、箸の練習用セットという話がありましたが、具体的にはどのようなものか教えていただいてもよろしいですか。

幼保施設管理課：ちょうど食具を箸に切り替える時期に、変な持ち方で覚えてしまうので、園で使っているお箸を教材にして、子供のお顔でお口のところを大きく開けて、そこにスポンジのような媒体を箸でつまんで運ぶということを個別に教えてます。カードに2か所穴をあけて箸を入れ、固定する1本を穴の中にあけて入れて、下が動

かせるような媒体のカードを作っています。自分で動かして媒体のスポンジをお口にいれていくという作業をクラスの方で教えてます。

(2) 第4次市川市食育推進計画について

(食育に関するアンケート調査報告、中間評価)

事務局：お手元に市川市第4次市川食育推進計画の概要版をお配りしました。こちらについて中間年で評価しますというお話をしておりますのが、初めて見ていただく方もいらっしゃいますのでご説明させていただきます。

今、様々な食育の関係課からこんなことを行います、行いましたって発表をさせていただきました通り、食育は非常に広くて、食の事業をいろいろ各関係課で行っております。この計画の基本目標は「健康な体作りと豊かな心を育てる」「食文化継承と食の循環環境を理解し実践する」「食育推進運動の展開と推進体制の充実を図る」というところで、やはり食育というのは広く色々な関係課と皆様方の団体と市民の方が参加して食育を知っていただき、実践して広めるということが大事だと思っておりますので、こちら一番下の推進体制のところに、市川市食育推進関係機関連絡会の名前も入っております。まさにこの会議や、こういった場で色々な食育の情報交換を行いまして、今後の食育の課題や目標を改めて確認し、ご意見いただくことが大切だと思っております。この具体的な内容につきましては本冊の方も見ていただきますとどんな事業を行っているか、また目標値も定めて推進してございます。今年は中間年、そして、アンケートについてのご報告をさせていただきたいと思います。概要版につきましても、広く市民の方に食育って何とか、こういった計画もあって皆さん食育大事だよ、やっていこうねっていうところをお知らせする1つの資料としてお使いいただきたいなと思って作成しておりますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

では次に、食育に関するアンケート調査の結果を説明させていただきます。インデックス内容2—①をご覧ください。今年度は第4次計画の中間年となるため、市川市Webアンケート（いちモニ）を実施致しました。期間は6月17日～30日の14日間です。回答数は2,407人で、令和4年度より1,000人程多くなっています。年代内訳は資料の通りでございますが、男性では50代60代が、女性では50代の回答が多く回答してくださいました。設問数が多いので抜粋してご報告いたします。

問1 食育に関心があると回答した方の割合は89.2%で、第4次策定時より6.3ポイント増加しています。問4 朝食摂取状況は、策定時とほぼ同じ8割の方が、ほぼ毎日食べていると回答していますが、20歳代～40歳代で「ほとんど食べない」と回答した方が多く、特に30歳代男性で、「週2～3回」「ほとんど食べない」方が27.8%でした。50歳代60歳代でも「ほとんど食べない」と回答した方が多くありました。朝食を食べない習慣になった時期は、「30歳以降」が最も多く、次いで、高校を卒業した「19～22歳の頃」からで、啓発する機会の少ない高校生、大学生から欠食が増えています。問7 食事バランスに関する設問です。主食、主菜、副菜を「1日2食以上食べる」と回答した方は65.3%と策定時より3.6ポイント増加しています。「1週間に数回」「1週間に1回も食べない」と回答した方は、20歳代～30歳代と40歳男性に多く、20歳代女性では18.4%の方が主食、主菜、副菜をそろえて食べていませんでした。そろえて食べない理由は、「手間がかかる」「時間がない」の理由が半数以上を占めますが、「食費がかかる」と回答した方も25.0%と高くなりました。問10 塩分摂取に「十分気をつけている」「どちらかといえば気をつけている」と回答した方の割合は、79.3%で策定時より3.4ポイント増加しており、年々、意識が高まっています。30～50歳代の働く世代の男性も70.4%と策定時より9.2ポイント増加していますが、「全く気をつけていない」と回答した割合も多く、また千葉県特定検診・特定保健指導のデータでは高血圧該当者の割合が高く、令和元年度より増

加しているため、引き続き実践に向けた取り組みを行ってまいります。問 17 食文化、郷土料理の継承に関する設問です。こちらは、市川市は単独世帯や転出入が多いため、出身地の郷土料理、日本の食文化も含めた設問に内容を少し変更しています。「知っている」と回答した方は、66.3%で策定時より5.9ポイント増加しており、さらに次世代へ伝えている方は56.4%でした。特に40歳代女性に「伝えている」割合が高く、お子さんを通じて、食文化、伝統行事に触れていることが考えられます。

最後に、自由記載では、287件の記載があり、女性は50歳代から、男性は60歳代の方から多くご意見を頂戴しております。意見の中でもよく出現したワードは、「学校給食への期待、充実、イベントの開催、市川市産の食材、フードロス対策、食事マナー、高齢者への食育、安心安全」でした。20代30代では、「小学校でノリ漬きや祭り寿司の体験をした記憶が残っている」「子どもと一緒に参加できるイベントで大人がメインに楽しめる内容を希望する」の声や、40代50代からは、「地元野菜が買えるマルシェの開催やスーパーで気軽に買えるようにしてほしい」「生産者の仕事を学んだり食べ方を直接教えてほしい」「親が調理するので大人への食育が必要」「硬いものを嫌がる子供の歯や頸の発達が心配」といった意見もありました。

60代70代の方からは、「高齢者や一人暮らしで時短、簡単な料理のイベント」や「環境問題を含めたフードロス対策」「骨を抜いた魚、季節感がなく年中同じ食材が店頭に並んでいる違和感」「箸の持ち方等の食事マナー」や「手軽なファストフードなどの食事を子ども一人で買い食いしている」ことへの危惧する声が上がる一方、「楽しくマナーを守っていただくことが心の栄養」といった意見がありました。全年代を通じて「物価の高騰」「節約の対象となりやすい食だが、バランスよく食べるには時間と金銭面に余裕がないと難しい」といった経済面や、「添加物や安心できる正しい情報を行政に求める」といった意見が多くありました。

また、少し気になる点として、子育て世代である30歳代女性はアンケートの回答数は多いけれど自由記載が少なく、仕事や子育てで忙しい毎日を過ごしているため文字を入力する手間をかけられないためか、また、食育アンケート問1でとった食育の関心が、策定時、令和5年度、とともに今回の中間評価でも関心がないと回答した方が多い結果になっており、来月、市民まつりがありますので、30歳代40歳代の方に直接お話しを聞いてみたいと思っております。以上が食育アンケート実施報告になります。このように自由記載を通して様々な声があがってきており、この結果は府内関係課で共有し今後の食育活動に活かしてまいりたいと思います。

次に、第4次市川市食育推進計画中間評価についてご報告いたします。資料は、インデックスの内容2-②をご覧ください。

令和7年度は令和5年に策定しました第4次市川市食育推進計画の中間年度になります。数値目標の達成度を把握評価し、状況の変化や新たな課題を踏まえ、令和9年度の目標達成に向けた事業展開の見直しを行うために実施するものです。

方法としては、いちモニによる食育に関するアンケート調査を実施し、指標項目について、計画策定値、現状値、目標値を比較し、達成状況を4段階で評価いたしました。資料の次のページに達成状況があります。現状値が、目標値を達成している指標は9項目です。「朝食または夕食を家族と一緒に食べる共食の回数」中学2年生、

「生活習慣病予防や健康づくりのために、食生活や運動に気を付け適正体重の維持を意識している」20歳から30歳代の女性と30歳から50歳代の男性、「塩分のとりすぎに気を付けている」30歳から50歳代の男性、「栄養教諭等による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数」、「市川市で水産物がとれることを知っている」、「食品の安全性について基礎的な知識を持ち自ら判断する」、「日本の食文化や郷土料理、家庭で受け継がれてきた料理や作法を知っており、伝えている」、「食品ロス削減のために必要な分だけ購入し調理している市民の割合」です。

次に、現状値が目標に向かって改善している指標は7項目になります、「食育に関心がある」、「朝食を欠食する」小学生、中学生、20歳から30歳代、「主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上ほとんど毎日食べている」市民全体と20歳から30歳代、「ゆっくりよく噛んで食べる割合」です。

次に、現状値が変化していない指標は3項目になります、「主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上ほとんど毎日食べている」30歳から50歳代男性、「1日2食以上野菜料理を食べる」、「学校給食における地場産物を使用する割合、金額ベース」です。現状値が改善しなかった指標は、2項目になります、「朝食または夕食を家族と一緒に食べる共食の回数」小学校5年生、「直近1年以内に農業体験に参加したことがある割合」です。こちらは国の第4次食育推進計画の令和6年度の現状値と比べますと、良い結果ではありました。

しかし、目標値を達成している指標はありますが、目標値に達成していない指標も多々あります。今後、本日の資料の内容2-③にあります第4次市川市食育推進計画掲載事業調査票に記載されている事業の進捗をまとめして、国や千葉県が実施した調査データも参考にし、評価していきます。そして達成状況を踏まえ、府内の食育に係る課と連携しながら市民が食育に関心をもって楽しみながら健全な食生活を実践できるよう事業を行ってまいります。しかし、行政だけでは実施が難しいところもあるかと思いますので、関係団体の皆様のお力添えもいただきたく存じますので、よろしくお願いいたします。

健康支援課長：只今の食育アンケート調査報告、第4次計画の中間評価につきまして、ご質問等ございますでしょうか。

池口代表：ご説明の方ありがとうございました。質問なんですけれども、問4の朝食を1週間にどの程度食べていますかの項目ですが、こちら10代の男女での差がぱっと見あるなと感じたのですが、母数の問題か他に原因があるのかということで質問させていただきました。

事務局：ありがとうございます。いちモニアンケートの回答者数が、10代の母数が、男性5、女性22と少なく、現状把握が難しいため10代の回答は除いております。

池口代表：続いて、問15の市川市で水産物がとれることを知っていますかの項目ですが、こちらも10代での認知度が少し低いなというように感じまして、こちらの方は総合的な学習の時間などに取り入れるということを市全体的に検討したりなどしているのでしょうか。

臨海整備課：ご質問ありがとうございます。臨海整備課です。現時点では学校全体にとは考えていませんが、こういう数値が出てますので、今後、教育委員会を含めて検討したいと思います。

高橋代表：主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日2回以上ほとんど毎日食べている市民の割合が20歳代30歳代で54%ということでしたが、とても高いと思いました。令和5年の国民健康・栄養調査では、男性20歳代が27.8%、30歳代が37.2%で、女性はもっと低くなっています。私が学生を対象に実施した調査では、毎日1日2回以上とっている人は17.1%でしたので、54%はとても高く、先ほどからお話が出ている通り、このアンケートに答えている方の対象の偏りが気になります。今後ご検討いただければと思います。

事務局：このアンケートの取り方や回答者によってというのは非常に大きいと思っております。かつて数年前まではこういったアンケート調査を郵送式でやるのが主流で、無作為抽出で各年代の方に送って、ご回答をもらって集計でしたが、やはり年々効率的なことが求められて、紙の郵送ができなくなっています。そんな中、Web アンケートが主流になっておりまして、市民限定というよりも広く市に在籍する方、働いてる方とか学生さんにということで、なるべく多くの方を中心としたアンケート方式になっております。学生さん協力くださいって言えば学生さんに偏ってたり、そういう面では非常にこのアンケートだけで評価していくのは難しいと考えておりますし、幾つか市の中でも同じようなアンケートをとっております。先ほど言いましたかわ健康増進計画でも同じようなアンケートをとっておりますので比較して、「この数字がよかったからいいんだ」と捉えることはできないと思っております。今ご意見いただいたことも併せて検討し、今後の評価をしていきたいと思います。ありがとうございます。

高橋代表：農水省の食育に関するアンケートもコロナの 2021 年度を境に、それまで対面で実施していた調査を、ウェブ方式に変えて、そこで結果が大きく変わっているということもありますので、調査方法は結果に与える影響が大きいので、それも考慮して評価いただければと思います。

池口代表：最後の目標に対する達成状況なんですけれども、こちらの 9 番の項目で学校給食における地場産物を使用する割合が低下しているというのは、金額ベースでみているからということでしょうか。

保健体育課：ご質問ありがとうございます。保健体育課です。おっしゃる通り金額ベースというところもございます。また、地場産物の使用につきましては、例年とほぼ変わらないというような状況ではあります。他の食材の高騰などの原因が考えられるかなと考えております。決して地場産物の使用回数が減ったというわけではありません。

（3）代表者及び関係機関等の取組紹介

健康支援課長：（3）代表者及び関係機関等の取り組みにつきまして、各代表からご紹介をいただきたいと思います。令和 7 年度の活動や、新たに行っている取り組み、食育に関して課題と感じていること、また、先ほどご説明いたしましたアンケート結果、達成状況の評価、これについてもコメントなどございましたら、併せてお願ひいたします。それでは、各代表の方、お 1 人 3 分程度でお願いできればと思います。

忠岡代表：今日、皆様のお話しを伺いまして、食育の範囲が非常に広いということを知り、改めて感心いたしました。医療者の立場でいいますと食育イコール食事療法ととらえる場合が多く、今回取り上げられていませんけれども減塩のほかにアルコールの問題、カロリー過多の問題など、この辺りは密接に疾病と関係がありますので、これは各医療機関でその都度指導されていることだと思います。ただ、広い意味で、育むという意味での食育という言葉にふさわしい対応は今まで小児科の先生であってもなかなかできなかったと思います。そこで、来年度、市川市医師会は管理栄養士がおりますので、この管理栄養士が中心になって栄養センターを開設する予定です。その運用についてはこれから詳細が決まる予定なんですけれども、今、関係機関に手続きを経て、正式に栄養指導のセンターを開設する運びとなっておりますので、おそらく来年の 4 月からオープンになります。将来はこの栄養センターが中心となって、食育の分野も担っていければと思っております。以上です。

鈴木代表：例年と同じく市川市ヘルシースクールプランの中ですこやか口腔検診をさせていただいてます。例年ですと、小学校の対象は小学校 5・6 年生です。小学校の授業を 3 時限ほどをいただいて唾液検査、咬合検査等をやり、年明けにその結果に基づいて講話を 1 時間ほどやるというような形でやっておりましたけれども、どうしても学校側の負担が大きいということで、本年度から、2 時限授業いただいて、講話と唾液検査、咬合検査を同時に行うという形でなるべく学校側の負担が少ないように食育をさせていただくようになりました。そのところ、例年は 5 校の手挙げ方式で参加希望があったんですけども、今年度は 8 校、生徒数になると 800 名以上の希望がありました。今年度においてはその中から絞って 5 校 500 人程度で授業をさせていただくことになっております。今日も大和田小の方で午前中、すこやか口腔検診をさせていただきました。

池口代表：市川市 PTA 連絡協議会、副会長の池口と申します。本日はこのような場に参加させていただきありがとうございます。PTA 連絡協議会では今年度も引き続き「早寝・早起き・朝ごはんプロジェクト」を推進しております。P 連の会議などで「子ども食堂」や「フードリボン活動」を紹介したり、学校の取り組みとして「学校だより」や「給食だより」などで食事の大切さを伝えたり、また保護者向けの座談会などを通じて、子ども達の健やかな生活習慣作りに取り組んでいると考えております。子どもの頃に身につける規則正しい生活習慣は、子ども時代だけでなく、大人になってからも学習指導要領の基本理念「生きる力」として重視される、いわゆる非認知能力による影響があると聞いたことがあります。また、こうした学力以外のスキルも、個人の幸せにとっても、大切なものであると言われているようで、とても共感しております。家庭・学校・地域が連携しながら、子ども達の健やかな生活習慣づくりを支えていきたいと考えております。しかしながら、最近ではネットや SNS の情報に影響されて、食事を抜いたり、偏った食べ方をする子どもがいると言われて心配しております。「どんな情報を信じるか」「自分に合った食べ方ってなんだろう」と、子ども自身が考えられるような力を育てるこことも大切だと感じています。難しいことではなく、日々の会話やちょっとした気づきの中で、こうした力は育まれていくものだと私は思っています。今回のアンケート結果を拝見して、私たちの活動と重なる部分がたくさんあると感じました。「健康づくり」や「子どもの頃からの食育」が大切だと考える方が多く、食育への関心が広がっていることはとても心強いです。繰り返しになるかもしれません、偏った情報で朝食を食べないなどの悪影響を、この会議を通じて改善していきたいと思っていますが、食育の達成状況を拝見すると、「関心は高まっているけれど、実際の行動や情報の質にはまだ課題がある」と受けとめています。今後はより一層、教育・医療・福祉・地域など、様々な分野の皆さんと手を取り合いながら、子ども達が自然に食の大切さを感じられる環境づくりを進めていけたらと思っております。ありがとうございました。

山崎代表：まずアンケート結果なんんですけど、すいません、ちょっと発言をしてないんですけど、10 代 20 代の割合が本当に少ないと感じたので、小学校中学校一斉アンケートとか、幼稚園でも簡単な質問で、少人数だったら集計できると思いますので、協会としてご協力させていただいて、やはり小さい頃からの食育って大人になってから継続すると思いますので、しっかりと情報を集めのには協力できると思いますので、お声がけいただきたいと思います。また、協会全体としては食育活動というものは行っておりませんが、個々の園で、色々な野菜の栽培や食育活動というものは行っております。当園でも、毎年のことになりますが、夏には年長さんが植えて収穫したトマト、ピーマン、ナスを使ったピザを作ったりとか、今日も園内でとった柿やブドウを子供たちが食べたりしました。来週には園内のいも畑でとれる予定のサツマ

イモ掘りを行いました、その後芋煮会を行ったり、あとは先日、収穫したイネを脱穀から精米まで、白いお米にするという活動も行う予定となっております。

そこで子供たちに聞いてちょっと気になったのが、ほぼ全員朝食は食べているということなんですが圧倒的に菓子パンを食べてくる子が多い。朝食で、ご飯派という家庭が少なくなっています。少し前もネーミングで話題になりましたが、片親パンみたいな、チョコスティックパンとか、たくさん入ったクリームパン、これももちろん、おいしいし、いいものだと私個人としては思いますが、そういうものを食べてくる子がとても多いということ、就労率がどの園も年々上昇しております、朝はご飯におかずを準備する時間がなく、菓子パンをパッパッと食べさせて、夜も18時頃にお迎えをして帰ってからササッと買ってきたものや、簡単なもので夕食を済ませてお風呂に入つて就寝といったような多忙な家庭が多くなってきております。また私の園では、お弁当と給食を選べるようになっておりますが、年々給食を選択する家庭が増えております。今後も就労の割合は増加が予想されるため、子供たち3食食べてはいるが、どんなものを誰と食べているのか、その質の低下が心配されるところあります。園としては子ども達が食に対して興味関心を広げられる、そういう活動をどんどん行っていきたいと考えております。

三吉代表：市川市食生活サポート協議会の三吉と申します。よろしくお願ひいたします。

今回、私たち食生活サポーターとしましては、例年通り、おとの食育講習会、夏休みに放課後保育クラブ、おやこの食育講習会、そして三番瀬まつりには、今年初めて参加させていただきました。この後は市民まつり、そして来年は、太巻き祭り寿司の研修会に、私たちサポーターが参加させていただく予定です。その中でも特に、今年のおとの食育講習会では、テーマとして、たんぱく質を取り上げましたが、テーマがタイムリーだったのか、非常に申し込みが多く、あつという間にいっぱいになり、急遽、午後の開催を2回増やしたという事例がありました。その他、若い世代に参加していただきやすいようにと考え、今年は土曜日開催も行いましたが、期待していたほど若い世代が集まらず、やはりご高齢の方の参加が多かったのが現状です。それを思いながら、先ほどのいちモニのアンケートの結果、30代の食育への関心が女性の方が低いということがありましたので、そこに結びついているのかを感じました。今山崎様からお話がありましたように、若い子育て世代が、忙しくて、やらなくてはいけないことが分かっていても、実際そこに出向く時間すらないということもあるのかなと個人的には思いました。子どもとの接点として、放課後保育クラブ、おやこの食育講習会がありました、特におやこの食育講習会では、小学1年生から6年生まで、大人の方と一緒に料理を作ることを数回行いました。その時に、初めて包丁を持つ子もいたり、料理をする前の野菜を見たときには、ピーマン嫌いと言っていた子が、実際にそれを調理し、出来上がったときに、「食べられた、全部食べたよ！」という声を聞くと、自分で実際に触って作ってみるとことにより食への愛情が湧いてくるし、さらにその子が家庭に帰った時に、「今日こういう料理を作つて食べられたよ」、「よかったです」这样一个親子の会話にも繋がるのかと思いました。そして来年行う予定の太巻き祭り寿司の研修会では、サポーター自ら伝統の郷土料理を学び、それを家庭内で実際にやってみることで、そこで親子で会話が生まれ、子どもがその伝承料理を知り、また繋いでいくという流れになっていけば良いと思うところです。以上です。

澤田代表：市川市漁業協同組合澤田です。漁協ですからまず現状の海の状況から、お話しします。皆さんもニュースなどでご存じかと思いますが、日本中でアサリ、貝類が激減してきています。今スーパーなどで売られているアサリの90%以上は外国産です。市川の海、三番瀬でもアサリがとれなくなつて、もう10年以上が経ちました。市川

市漁協でも、貝類の生産は現状ホンビノス貝だけです。最近はシオフキ、マテガイ、バカガイなども見れなくなりました。オゴノリなど海藻類も同じです。家庭で食べている地場産物も変わってきています。これも温暖化のせいでしょうか。木更津方面で少しあサリがとれていますが、身がやせています。それは下水が高度処理されるようになります。海水の栄養分がなく育たないそうです。温暖化による海水温の上昇、海水の貧栄養化、今後の漁業はどうなっていくのでしょうか。しかし、ノリ養殖は期待が持てそうなようで一安心です。

10月5日の日曜日に漁港を使った市の三番瀬まつりは3回目でもあり、天候にも恵まれ大盛況でした。臨海整備課による塩づくり、市川市はもともと塩づくりのまちでした。市川市の砂、市川市沖の海水で作った塩で、お客様も市長も見入っていました。組合では、海業の推進で市川市の海を知ってもらうため、毎月第1日曜日には漁港朝市をやっています。どうぞ、時間がありましたら来てみてください。以上です。

菅谷代表：千葉伝統郷土料理研究会の菅谷です。千葉の郷土料理である太巻き祭り寿司の調理講習会等を中心に活動を行っています。

八幡小学校と若宮小学校では、総合学習の時間に食に関する指導として太巻き指導を行いました。また今年度も太巻き祭り寿司のデザインコンテストを行いました。市内小中学校でたくさんの応募をいただきました。今回の応募ではキャラクターものではない新作のデザインで、市川市では中学生の部で知事賞1名、小学生の部で準大賞1名、優秀賞として小学校の部で6名、中学生の部で3名が受賞しました。2月には保健センターの食生活サポートの皆様を対象に太巻き祭り寿司の研修会を行う予定です。千葉伝統郷土料理研究会の市川支部のメンバーは学校の栄養士がメインとなっています。市川よみうりのおいしく食べようのコラムで、今年度もおすすめ人気メニューを月1回掲載しています。機会があったらご覧ください。

先ほどの保健体育課の報告と重なってはしまいますが、来月11月は学校給食に地場産物を活用することとして千産千消デーとして、千葉県、市川市の産物を活用した給食を出している学校がほとんどです。私の勤務している市川市立第二中学校では、近隣の二中ブロックの学校、真間小学校、菅野小学校、国分小学校、須和田の丘支援学校と市川や千葉県の産物をたくさん使った共通献立を立てています。今年度は、ご飯、さつま芋とチーズの豚肉巻き、千葉野菜の具だくさん味噌汁、ひじきの梅煮、市川のなしじりー、牛乳と千葉県や市川市の食材をたくさん使ったメニューにしました。献立表や健康委員会の給食時間の放送、毎日クラスに配布している給食室だりなどで、千産千消のアピールを生徒にする予定です。いちモニアンケートの結果、問21で郷土料理や伝統食の食文化の継承のところでは、34.2%の方が取組が必要と言っています。郷土料理を知ってもらうためにも、小中学校から親しんでいることが大切だと考えます。普段の給食での太巻き祭り寿司を出すことはなかなかできないのですが、千葉県の郷土料理である、さんが焼きやつみれ汁、性学餅の入った汁物などを取り入れています。ちょうど本校の給食は、先ほど保健体育課からの報告でもあった通り、和食の日を入れていて、千葉県の郷土料理のさんが焼きを出しました。最後まで残菜を見ないできてしまったのですが、魚のメニューということで、子供にはあまり人気がなさそうで、食缶のふたを開けたら全然手つかずのものがクラスでも2、3枚あって一口かじっただけのものがまた2、3枚あったりして、ちょっと残りは多そうな感じでした。やっぱり魚のメニューはどうしても残りがちになります。ただ、和食の良さや郷土料理を知ってもらう機会にもなるので、給食でも積極的に取り入れたいと思っております。以上です。

中野代表：市川商工会議所中野と申します。今回から参加させていただきます。よろしくお願いいたします。市川商工会議所では、市川市のご後援もいただきまして、市川地

域ブランド協議会という組織を持っております。市川市の農産物でを使った加工品やスイーツを皆様にご紹介しています。春先は市川トマト、それからこの秋口は、市川の特産の梨、加工品を各商工会議所の会員の皆様と、農業協同組合、商店街連合会、観光協会、パンカシー商工組合、通称組合員さんにご協力いただいて事業を行っております。最近は、トマトと市川の梨になります。それで以前は、リーフレットやパンフレットとか作成して市川市においていただいたりしてたんですけども、アンケートの件でもありましたけれど、最近はWebにホームページを立ち上げまして、こちらをご紹介したり、PDFデータもダウンロードできるようになっておりますので、皆様ご興味がありましたらぜひご覧いただきたいと思います。これからよろしくお願ひいたします。

相原代表：市川市消費者モニター友の会、相原と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。私たちも去年、一昨年と同様またアンケートをとりたいなと思っているのですが、なにしろ今年の夏は非常に暑くて、命の危険ということで夏はちょっとお休みをしまして、現在どんな内容にしようか詰めているところです。アンケートは例年通り書くのに時間をかけずふっと浮かんだものをパッと書いてもらいたいなということで、ポイントが難しくて、もうちょっと時間をかけてと思っております。

食育アンケートのデータを拝見しましたけれども、それを読みながらちょっと思ったのが、夏頃東京おもちゃショーというのがニュースになっていて、ふっとテレビの画面を見たときに、みんな買えるんだと思ったのです。全て、例えば子供のおもちゃにしてもなんにしても全部そこにある。何を言っているかといいますと、私たちの頃って、お人形さん1つあったならばそのお人形さんに着せる洋服とかは結構自分で作ったりとか、親がちょっと手を貸してくれたりとかしてたなあって思って、かなりびっくりしちゃったんですね。要するにお金との対価じやなければ、物が手に入らないっていうのが、ザーッとこの社会一般にいきわたっちゃってる。子供にはやっぱり工夫を加えたりすれば、自分のものになるんだよっていうことを教えるのに「食」っていいのかなって思ったんです。例えば、小麦粉が1つあれば、主食からおやつまでできます。そういうことを身につけていくっていうのも食育ではないだろうかと思いました。そうすることによって、生きる力にもなるんじゃないかということを若い子に小さいうちに身につけてほしいな、とテレビのニュースを見ながら全然関係ないところに飛んでいってましたが、そういうことを考えました。私たちも年齢が上がっていますので、そのようなアンケートをとってみたいと思います。ありがとうございました。

山本代表：市川市社会福祉協議会の山本と申します。今回から初めてこの会に参加させていただくことになりました。普段は福祉関係の委員会とか、あと介護関係の会議とかはいくつか出でていますが、こういった食育ということで普段と違うメンバーの方からいろいろご意見をいただけて非常にありがたく思っております。

社会福祉協議会の方でございますが、地域福祉を推進する各種事業を展開しております。その中で食ということですといつつかありますが、先ほど清掃事業課さんから食品ロスの関係でお話しがありましたが、フードバンクの事業を本会でも展開しております。昨年度のベースでございますが、寄付は570件、6.2tのご寄付をいただいております。その中には清掃事業課さんからいただいているであろうものもあります。フードバンクで集めたものをどうしているかというと、生活のお困りの方に無償で提供しているという活動をしております。我々福祉の団体ですので、普段からこういった生活にお困りの方の相談に乗っているということでございます。提供した件数ですが、昨年度は192件でございます。こちらは個人で困っている方もそうですが、そういった方を支援している団体、専門機関、後はこども食堂等に渡した件数でございま

す。また併せて、市内の大学、短期大学等に食品を渡して、今、大学生でも生活にお困りの方も多いためフードパントリーといいまして食品の譲渡会を大学で行っていただけませんかという働きかけをしまして、市内の千葉商科大学、和洋女子大学、環太平洋大学、昭和学院短期大学等に働きかけをいたしまして、学生さん自らが運営をするフードパントリーの活動と一緒に今、展開しているところでございます。こちら主催はもちろん大学様でございます。後は、こども食堂の支援ということで、こども食堂に食品を提供する活動もしております。こども食堂の活動が安心、安全に行われるよう私どもで傷害保険料の助成を行っております。何かお怪我をされたときにおけるような保険を予算化をして支援をさせていただいているところでございます。

アンケートの方ですが、気になったのが、達成状況のところで 3 番の朝食または夕食を家族と一緒に食べる共食の回数、いわゆる孤食じゃない回数が、こんなに高いのかなと思いましたが、こども食堂は、こういったことがあるから開催している意味があると思います。もちろん食べるのに困っている部分という事もありますが、孤食防止という一面もございますので、なるほどこういった数値が出ていて小学校 5 年生はバツがついておりますが、こども食堂はまだまだ必要なのかなと感じました。あと最後の 14 番の食品ロス削減のために必要な分だけ購入している市民の割合が 91.2%、これは非常に高いのかなということで喜ばしいと正直思いました。アンケートの方法ですが、私どもは地域の活動を支援しているということで、市内各所にふれあいきいきサロンという全国的にはそういった名称で呼ばれている活動で、市川市ではてるぼサロンと呼んでいますが、地域の井戸端の活動を推進しているところでございます。今市内 120 カ所ございまして、そのうち大体高齢者が多く集まるような集まりが 98、残りの 22 は子育てサロンで親子の集いの場となっております。多くは就学前のお母さんとお子さんが参加されるというような集まりでございますので、先ほどのアンケートですが、なかなか Web では集まらないとお聞きしましたので、もしよろしければそういったところでアンケートを実施するという事も可能でございます。地域共生課が管轄になりますので、イベントに参加したお母さんにアンケートを行うことは可能ですし、高齢者から何か聞きとりたいということであれば、そういった集まりのときにアンケートすることは可能だと思いますので、ご相談していただければと思います。以上でございます。

田邊代表：千葉県市川健康福祉センター（市川保健所）です。千葉県の機関ですので、千葉県の行っている取り組みという形で紹介をして参りたいと思います。千葉県では「第 4 次千葉県食育推進計画」によって令和 4 年の 4 月から取り組みを行っているところです。この計画では、「『ちばの恵み』を取り入れたバランスの良い食生活の実践による生涯健康で豊かな人づくり」を基本目標として、「ライフステージに対応した食育の推進」、「生産から消費まで食のつながりを意識した食育の推進」、「ちばの食育を進める環境づくり」の 3 本柱で取り組みを進めています。その中で市川保健所での主な取り組みは 3 本柱のうち、「ライフステージに応じた食育の推進」と「ちばの食育を進める環境づくり」に関する取組を行っております、主な事業を 2 つご紹介させていただきます。1 つ目は「ライフステージに応じた食育の推進」としまして、給食施設への取組です。学校や保育所、老人福祉施設や事業所などの給食施設への指導や情報提供を通じて、給食利用者の栄養管理の向上や、利用者の特性に応じたバランスのとれた食事の提供を推進しています。

2 つ目は「ちばの食育を進める環境づくり」に関する取組としまして、「健康ちば協力店」の取り組みです。「健康ちば協力店」というのは、野菜がたっぷり食べられるメニュー等や食塩に配慮したメニュー等を提供している、店内終日全面禁煙を実施している、この 3 つの要件から 2 つ以上を選択したお店を協力店としておりまして、地域の飲食店などを対象に協力や周知、啓発を行っております。令和 7 年 6

月末現在では、県内で 183 店舗、市川保健所管内、市川市・浦安市では、市川市で 7 店舗、浦安市で 1 店舗の登録状況です。昨年度、2 店舗新たに登録があったところです。登録店舗については、千葉県の「健康ちば協力店」のページで紹介をしています。今後も登録の拡大を目指していきますので、野菜たっぷりですとか減塩、店内禁煙に取り組むお店をご存じの場合はどうぞお知らせいただけますと、大変光栄です。これらの事業により、飲食店や食品関連事業者、給食施設への働きかけ、また、市や関係機関と連携をした普及啓発を行い、望ましい食生活が実践しやすい環境整備に取り組んでいるところです。

食育に関する「いちモニアンケート」結果について、多くの指標項目の改善傾向であるというのは好ましいと感じました。ただ一方で、若い世代や、男性で、朝食欠食や食事のバランス、適性体重の維持についての意識がやや低い様子が見受けられたのが気になりました。また食に関する情報源で最も多く挙げられたインターネット、SNS というのは、真偽不明の情報が入り混じる中で市民の皆様が正しい情報を選び取ることができているのかと大変気になりました。食育というと子ども向けの取り組みを考えがちではありますが、まずは大人の方が必要な知識やスキルを身につけているということが重要ではないかと感じた次第です。以上になります。

高橋代表：和洋女子大学健康栄養学科で、食育推進の担い手となる管理栄養士の養成、こども発達学科の保育士の授業も担当しております。学生の学びの場としては、大学内だけではなく、現在は産学官連携を通して、実践的な学びも積極的に取り入れているところです。来月開催されるいちかわ市民まつりには健康栄養学科の学生が、今年も参加させていただいて、来場された市民の皆様に食育の活動をさせていただく予定となっております。またそれ以外の産学官連携の取組としても、学生が主体となって様々行っておりますが、今現在行われているものとしては、リブレ京成で「わよパン」という名称で旬の食材などを活用した総菜パン・菓子パンを売り出しているところです。船橋市の東武デパートのレストラン街、地下の食品売り場では、旬の食材などを活用した、健康的なメニューのレシピ開発から試作、試食まで学生が中心となって行っており、もうまもなく販売が始まるところです。さらに、まもなく始まる取り組みとして、JR 東日本開発企画、市川と八幡にあるシャポーを運営している会社が 10 月 1 日から始める「シャポウェル」という健康支援アプリ、LINE を使ったアプリのコンテンツ制作を学生と一緒に取り組む予定で準備を進めているところです。このシャポウェルは、20 歳代 30 歳代の若い世代や、健康作りに关心が薄い人たちをターゲットとしており、学生と一緒にどうすれば効果的な支援ができるか考えながら取り組んでいければと思っております。以上です。

山本代表：私は、市川市内の北方地区、市川学園の周りで、主に野菜の栽培を行っておりまして、先ほど海の状況に異変があったというようなお話があつたんですけども、皆さん、夏過ごしている間に 35℃ の日があんなに続くこともなかなかなかつたと思うんですけども、やはり野菜の方にも影響が出ておりまして、私は年間 10 品目程度野菜を作っているんですけども、その中でネギを、12 月から 3 月の間、市川市の北東部の学校の方で学校給食に提供させていただいておりまして、ネギに関しても栽培に関する変化をお伝えすると、ネギは栽培適温がありまして、最低気温が 25℃ を過ぎると夏の間滯っていた生育を復活させるタイミングなんですけども、例年それが 9 月頭ぐらいで再開が始まるんですけども今年に関しては、9 月 20 日を過ぎても 25℃ を切る日がなくて、単純に言うともう 20 日間生育の遅れが出てる状況で、なので 12 月の給食に自分は間に合わせられるのかとちょっと不安になりながら、何とか手を尽くして間に合わせるように努力はしております。あと、食育という観点ということで、市川市産の野菜を食べていただくということもあるんですけども、私が出た幼稚園

が毎年芋ほりさせていただいておりまして、11月にまた幼稚園に来ていただいて芋ほりのお手伝いをさせていただきますけども、こちらもサツマイモは積算温度で、芋の肥大がしていくんですけども、積算温度ということは、気温が高かったら大きくなる率が高くなっていくので、多分今年はどの芋ほりもとんでもない大きさの芋を収穫することになるのかなと思っております。私が所属してる団体が市川市農業青少年クラブという若手農業者の後継者が任意ではいる団体があるんですけども、そちらの方でも芋ほりのお手伝いをさせていただいておりまして、昨年まで2校だったんですけど新たに幼稚園の方に希望がありまして今年は4校の手伝いを来週からさせていただく形になっております。アンケートについてなんですかということも、市川産でどのような水産物がとれるかっていうアンケートがあったんですけども、ぜひ農産物でもやっていただければと思いまして、市川と言えば梨っていうのはある程度認知度があると思うんですけども、市川の野菜って言われても思い浮かぶものがなくて、私たち自身も市川では何でも野菜が作れるんですけども、何が強いかと言われると自分が得意なものを提案することになってしまうので、市民の方がこの野菜が美味しかったとか、そういうイメージで何か、農産物の強みを作るためのきっかけになるものをいただけたらなとアンケート聞いていただけたらと思いました。

健康支援課：各団体様より様々な活動の内容、取組、課題等をご報告いただきました。各団体として質問やお伺いしたいこと、何かございますでしょうか。
それでは本日代表者の皆様にいただきましたご意見を、中間評価の報告、今後の食育活動に反映させて参りたいと考えております。ありがとうございます。
それでは、その他ということで、事務局より説明が2点ございます。

(4) その他

事務局：まず1点目、先ほども少しお話しましたが、第4次市川食育推進計画の概要版、、多くの市民の方へお配りして色々知っていただきたいということもございますので、もし皆様方の関係団体でご希望ございましたら、事務局までお声がけください。次に2点目です。次回の連絡会は来年1月29日木曜日を予定しております。第2回連絡会では、関係機関団体の食育の取組紹介で和洋女子大学の高橋様から、学生に行った食育のアンケートの結果などについて発表いただく予定になっております。お忙しい中、ご協力大変ありがとうございます。準備等も必要となりますので事前にお声掛けをさせていただいております。また皆様方の方からも何かご提案とかお話の希望等ございましたら、ぜひ事務局まで声がけいただきたいと思います。よろしいでしょうか。では、第2回の連絡会ではよろしくお願ひいたします。

健康支援課長：以上をもちまして本日の議題はすべて終了いたしました。最後になりますが、冒頭にお伝えしました通り、当連絡会は会議公開指針に基づく審議会に準ずる位置付けにございますことから、会議録につきましては改めてメールで、ご案内をさせていただきます。それでは本日はご出席いただきましてありがとうございました。

これをもちまして第1回の連絡会は終了といたします。長時間にわたり本当にありがとうございました。

以上